

# 「学校配置の方向性（整理案）」に対する 第2分科会委員への意見照会結果

資料3

○○…検討箇所    △△…字句修正

## 第1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

頁	項 目
1	1 高等学校教育を受ける機会の確保
<b>◆加除修正に関する意見</b>	
1	○ 全ての生徒が夢や志の実現に向けて、 <u>どの地域に居ても</u> 高校を選択できるような環境づくりを検討する必要がある。(波線を追加)
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
1	○ <u>校舎での対面授業だけでなく、オンラインやメタバースを活用した教育を展開していく可能性については、ここで語られるべきであり、検討会議でも、多様な教育の提供について検討すべきだ</u> と思う。
1	○ 入試については、何ら検討されることなくここまで来たが、 <u>機会の確保という点では、入試についても、検討されるべきではないだろうか。</u>
1	2 充実した教育環境の整備
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
1	○ <u>生徒に安全・安心な教育環境を整備する上で、近年の猛暑を鑑み、クーラーの設置については、ここで語られるべきであり、検討会議でも検討すべき事柄だ</u> と思う。特に、調理科が設置されているのにも関わらず、調理室にクーラーの設置が無い等、現在の学校の実情を踏まえての検討は行うべきだと私は思う。
1	○ <u>Wi-Fi 環境の整備、1人に対しタブレット端末が一台貸し出された環境で育った今の子どもたちが、高等学校で同等、若しくはそれ以上の教育環境で学習することができなければ、高等学校に魅力を感じられない要因となりかねないと思われることから、その点についてもここで語るべきだし、検討が至っていないのであれば、検討会議で検討すべきもの</u> と思う。

## 第2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

頁	項 目
2-3	1 全日制課程 (1) 6地区ごとの学校配置
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
2-3	<p>○ まず前提として、6地区ごとに学校を配置している現状は、あくまで県側の都合であるということが、この検討会議では抜け落ちていたように思える。</p> <p>これまでの固定観念に我々検討委員がとらわれ、6地区ありきで検討されてしまったことを、とても残念に思う。</p> <p>保護者も子どもたちも、これまでが6地区ありきだったからこそ、その消極的な選択の中で高等学校を選ぶことしかできず、また、金銭的事由・通学にかかる時間・公共交通機関で通える範囲等、やまれぬ理由で選択が狭まれている実情があるということを、どれだけ我々検討委員が把握し、そこから学校配置や新たな魅力の創成に結び付けるかについては、十分な議論がなされなかったように思える。</p> <p>初めから「6地区ごとの…」で議論を展開せざるを得なかった点については、事務局側の配慮の欠如も私としては感じている。</p> <p>新たな魅力を創成する会議においては、<u>これまでの実情を踏まえるだけでなく、それが適正であったのか、魅力といえるものとなっていたのかについても、十分な議論が必要だったと私は思う。</u></p>
3-4	(2) 学校規模
<b>◆加除修正に関する意見</b>	
3	<p>○ イ 今後の方向性 ◆標準の維持に当たって考慮する点の2つ目の・</p> <p>・ <u>大人数になじめない生徒や生徒に寄り添った個別指導を行う必要があるといった観点からは、規模の大きい学校では限界がある。(波線を追加)</u></p>
3	<p>○ イ 今後の方向性</p> <p>◆標準の維持に当たって考慮する点</p> <p><u>「生徒に寄り添った個別指導を行う必要があるといった観点からは、規模の大きい高校では限界がある。」を「規模の大きな学校においても、生徒に寄り添った個別指導は今後も継続して行う。」ではどうか。</u></p> <p>「限界がある」では、個別指導そのものがない可能性があるとして受け取られかねないので、そのような文言を避けてはどうか。</p>
3-4	<p>○ ■基本となる学校規模 イ 今後の方向性</p> <p>(学校規模の標準によらない対応)</p> <p>1つ目の○ 「…<u>実情や要望を踏まえた上で…</u>」について、これだけでは説得力がないので、具体的事例を挙げてほしい。→「…<u>などの実情</u>」</p> <p>2つ目の○ 「<u>学校規模の標準を適用させるのではなく</u>」は、統廃合をする際の足かせになる。→「<u>学校規模の標準を踏まえながら</u>」</p> <p>◆標準の引下げや標準によらない対応に当たって考慮する点</p> <p>1つ目の・と2つ目の・が類似しているので、一つに集約した方が良いのでは。</p>

4	<p>○ <b>重点校・拠点校の学校規模</b>  (学校規模の標準の引下げ)  重点校3～5学級、拠点校2～3学級など柔軟な設定が良いと思う。  (学校規模の標準によらない対応)  「…<u>実情や要望を踏まえた上で</u>…」について、これだけでは説得力がないので、具体的事例をあげてほしい。→「…<u>などの実情</u>」</p>
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
3-4	<p>○ 会議の中では特に話題にあがらなかったが、なぜ我が県は<u>小規模校と大規模校の二極だけで、中規模校が無いのか。</u>  多様な高等学校の姿を探し、創設することも検討されるべきだったのではないかと私は思う。</p>
3-4	<p>○ <u>地域の総人口、将来のこどもの数など、地域差があることから、標準(規模・学級数等)の適用による配置に拘らず、教育現場の実情に応じて市部と郡部の違いを容認するなど柔軟な学校運営ができるよう配置すべきである。</u></p>
5-8	<b>(3) 小規模校(地域校)の配置</b>
<b>◆加除修正に関する意見</b>	
5-8	<p>○ 小規模校と地域校の区別が、私には分かりにくかった。  その点から、小規模校に関しては、配置の見直しが設けられているが、地域校は募集停止の基準についてあり、その学校を目指す保護者や子ども達には、より分かりにくいという印象を受けた。</p>
6	<p>○ <b>◆見直しに当たって考慮する点</b>  1つ目の・ 「<u>小規模校を希望する生徒が…</u>」については、なぜ希望するのか具体例を挙げながら記載してほしい。  (地域校制度の継続)  ○ 「<u>極端に生徒数が少なくなった場合</u>」→「<u>生徒数の減少に伴い</u>」  <b>◆継続に当たって考慮する点</b>  2つ目の・ 「<u>募集停止等の基準を一律に適用するのではなく</u>」→「<u>募集停止等の基準を踏まえながらも</u>」</p>
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
6	<p>○ (地域校制度の継続)  <b>◆継続に当たって考慮する点</b>  <u>3つ目の・に「自家用車での送迎により通学している生徒もいることも…」とあるが、これを前提とした考え方は不適切ではないか。</u></p>
7	<p>○ <u>こどもたちの教育を受ける機会の確保を重視し、小規模校でも可能な限り残すべきであるが、やむを得ず(十分な教育を展開できない等)募集停止となるときは、こどもたちに不利益が生じないよう最大の支援(選択の自由、通学支援等)を怠らないことが重要である。</u></p>
8	<p>○ (ICTの効果的な活用) <b>◆活用</b>に当たって考慮する点に追加  ・ <u>ICT活用の効果を十分に検証し、教員に負担が生じないよう留意する必要がある。</u></p>

8	2 定時制課程・通信制課程
◆学校配置の方向性についての意見	
8	○ <u>こどもたちの学び方の選択肢を見ると、今後、どの地区でも、定時制は午前・午後・夜間課程が必要で、通信制はどの地区でもそこでスクーリングが可能な体制が必要である。</u>

### 第3 学校配置と合わせて検討すべき事項

頁	項 目
9-10	1 再編の方法等
<b>◆加除修正に関する意見</b>	
9	<p>○ 資料2 9ページ 「イ 今後の方向性」 (学科の統合や異なる学科の高校の統合) ◆統合に当たって考慮する点</p> <p>1つ目の・にある意見のような書きぶりとしたときに、実施計画における統合の決定から統合校の開校までの過程において「慎重に検討」し、「教育的効果を高めることができない」又は「あまり期待できない」との結論に達した場合、「統合案そのものが白紙になる」あるいは「別の選択肢を検討することになる」と読み取ることもできてしまう。</p> <p>こうした誤解を生じさせないためにも、令和10年度以降の学校配置を考えるに当たっては、<u>統合について「慎重に」検討すべきといった趣旨となるよう、記載を工夫する必要がある。</u></p>
10	<p>○ (教育環境の充実に向けた他の方策) に、具体的な例として<u>付け加えてはどうか。</u> 「・ <u>生徒一人一人のウェルビーイングの実現のため、また一人一人の志望を叶えるため、これまでと同様、教育環境の充実を図る。例えば、大学進学者の割合が増加している現状において、可能な限り学校現場の要望に応える。</u>」</p> <p>専門学科を有する高校だけではなく、普通高校においても、大学進学者が多い学校では、受験科目担当の教員配置には特段の配慮が必要であるからです。県民の所得増という観点からも、小規模校や専門高校に対する配慮と同様、大学進学についても留意する必要がある。</p>
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
10	○ <u>(教育環境の充実に向けた他の方策) に、デジタルの活用に関する記述を加えるべきではないか。</u>
11	2 学級編制
<b>◆加除修正に関する意見</b>	
11	○ ア 現状 2つ目の○と3つ目の○にも「 <u>少人数学級編制により</u> 」を、文頭に付すべきと思う。
<b>◆学校配置の方向性についての意見</b>	
11	○ イ 今後の方向性 (少人数学級編制の推進) <u>1つ目の○について、本県独自に少人数学級編制を実施するということか。</u> <u>2つ目の○について、学校によって異なる対応になっているのか。</u>

11	<p>○ <u>1学級当たりの生徒数をどうするのか</u>については、学校規模と違うのかどうなのか、私には非常に分かりにくかった。</p> <p><u>学級数だけをもってして学校規模を推し量ることが正しいのか、全校生徒数をもってして学校規模を推し量ることが適正なのか</u>、私としてはとても悩ましいことなのだが、この点については検討会議では特段議論されることもなかったことが、私としては残念だった。人口減で生徒数が減少する中、多様性により、より個々のニーズに添った対応が求められている今、小・中学校では教職員がその対応に疲弊してしまい、教員を続けることが難しくなっている事例がとて増えており、少しでもその現場を助けるために<u>1学級当たりの児童生徒数を国の規定よりも少なくして対応しているが、それでもまだ十分ではないという話を伺っている。</u></p> <p>高等学校も同じ現状を抱え始めているはずだが、高等学校は不登校になっても、学年制のため、単位が取得できないから進級できない、義務教育ではないから、自主退学等もあり、この点については、あまり危機感をもって議論されなかったように思える。</p> <p>しかし、それが高等学校教育の姿として正しいのか、私たちは十分に検討する必要があるように思える。</p>
11	<p>○ <u>多様な他者との関わりをどのように持たせるのか、その工夫については、あまり議論されなかった印象がある。</u></p> <p>問題点をあげるだけなら、誰でもできると思う。我々に求められているのは、その課題をどのようにクリアすることで、より魅力ある高等学校にしていくのかを提言することだと私は思うことから、これでいいのかと疑問に思った。</p>
11	<p>○ <u>学級編制に当たり、教員の意見を考慮する必要については明記されているが、保護者や生徒等のユーザーの意見も考慮する必要はあるだろうと思う。</u></p> <p>また、<u>教科や授業によっては、少人数の方が良かったり、逆に多くの意見を交わしたりと、ある程度の人数があった方が教育効果を高く望める場合もあり、その点については、専門家の知見も入れるべきだと私は思う。</u></p>
11	<p><b>3 通学手段の確保・通学支援</b></p>
◆学校配置の方向性についての意見	
11	<p>○ イ 今後の方向性</p> <p>◆ 充実に当たって考慮する点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域公共交通への影響を考慮する必要がある。</u></li> </ul> <p><u>とは、具体的にどういったことを念頭に置いているのか確認したい。</u></p>
11	<p>○ <u>地域性（広範囲からの通学や交通網の少なさ等）により、自家用車での送迎をせざるを得ない家庭も相当ある。通学に係る負担（金銭的・労力的）は通学手段の違いにかかわらず生じることから、通学支援は全ての家庭に必要である</u>と考える。</p>

12 4 地域等から理解と協力を得る取組

◆加除修正に関する意見

- 12
- イ 今後の方向性  
(地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり)
  - 実施計画の策定や、統合校の開設に向けた開設準備委員会の開催等について、これまでと同様の方法を進める。とのことで、全く同様かと思わず少し残念だったが、
  - ◆ 地域等の理解と協力を得るに当たって考慮する点
    - ・ 実施計画の公表から統合に至るまで、県教育委員会が関与しながら一貫性を持って進める必要がある。
- との記載があったことにより、救われる思いである。
- 「公表から統合に至るまで」が「公表から統合校の開校に至るまで」となれば、より明確であると感じている。

その他

頁	項 目
	<p>○ 現状の教員配置数は、生徒数・学級数を基準としているが、教科・科目の授業担当時間数を根拠にしているとすれば、現場の実情には合っていない。</p> <p>教員は授業だけの担当ではなく、特に時間や労力を割かれる<u>生徒たちの様々な悩みやトラブルへの対応、対外的な折衝、調整や、進路達成のための活動など、授業担当時間数で積算した配置では明らかに教員数は不足している。</u></p> <p><u>教員配置数については現場の声を積極的に受け入れるべきである。</u></p> <p>また、<u>昨今の現場が少数精鋭での経営・運営になっていることから、様々な休暇（当然認められているもの）や研修、出張時での一教員の不在による他の教員への負担も大きい。</u></p> <p>優秀な教員群による生徒の指導も有効だが、様々なタイプの教員がいることで、生かされる生徒もいるという事実も否定できないので、<u>各校とも一人でも多い教員配置を早急を実施すべき</u>である。</p>
	<p>○ 今回、まとまったものを改めて拝見し、我々の検討が不十分で、とても内容が薄いものになってしまっていたのではないかという考えに至り、とても残念に思っている。</p> <p>無論、これまで我々が十分な検討ができるよう、様々な機会を設け、資料を準備し、配慮していただいた事務局には、とても感謝している。</p> <p>しかしながら、これまでの固定観念を払しょくし、新しい時代に添った高等学校の魅力づくりという案件に関していうなら、事務局も我々委員も、まずはこれまで行われてきたものが、本当に適正なものであったか、今の時代に即しているのか、まずはそこに疑問を持ち、議論するところからはじめなければいけなかったと、今回気づかされた。</p> <p>無論、事務局としては、いつぐらいまでに方向性を固めて形にしたいという思惑もあるということは重々承知しているが、これだけの委員メンバーが集まり、これだけ回数を重ねて会議がなされた割には、目新しさに欠けたものとなっており、結局、保護者も子ども達も、そこに合わせるしかない提案しかできなかつたことが悔やまれてならない。</p>
	<p>○ <u>学校規模、学級編制、小規模校、地域校…と、分けて項目を設けることには異論はないが、これらの課題は横断的に考えることによって解決への糸口がみえることも非常に多いため、記載にはそのような工夫も盛り込んで欲しいと思う。</u></p> <p>現状では全てを読み込まなければ、実情と解決策が見えてこないようになっているが、小規模校の抱える問題に対しては、どのような解決策が会議で出されたのかも、その項目の中に盛り込み、併せて、例えば関連する他の学校との連携等について記載された項目への案内も、同じ小規模校の項目に記載することで、抱えた課題をどうしていくのか、そこには何が必要で、何が問題なのか、より読み手にわかりやすい資料となることが期待できるのではないかと思った。</p>